

C O L U M N — AI活用 | 株式会社DnD

動画制作を外注し続けますか 生成AIで販促・採用動画を 内製化する考え方

「動画があれば伝わるのに、制作費がかかりすぎる」という悩みを解決する。
生成AIを使って中小企業が動画を内製化するための、流れと注意点をまとめた資料です。

株式会社DnD | <https://dnd-inc.jp/> | 2026年8月

この資料の要点

- ・生成AIにより、動画制作のハードルが大幅に下がり、中小企業でも内製化しやすい環境が整いつつある。
- ・SNSショート動画・会社紹介・採用動画など、「型」が決まっているコンテンツから始めるのが成功の近道。
- ・著作権・ブランドトーンの統一・品質確認フローの整備が、内製化を継続させるための鍵になる。

「動画を作りたいけど高い」の正体は何か

動画制作を外部に発注すると、30秒～1分の販促動画で数十万円の費用が発生するケースは珍しくありません。撮影・編集・ナレーション・BGMライセンスなど、完成品には多くの工程が含まれており、その積み上げがコストになります。

一方で「毎週SNSに投稿したい」「採用ページに動画を置きたい」「展示会用にデモ映像が欲しい」といった需要は、中小企業でも増えています。コストと需要のギャップが、「動画があれば、でも作れない」という状況を生み出しています。

生成AIで、何ができるようになったのか

2025～2026年にかけて、テキストや静止画から動画を生成できるAIツールが複数のサービスで実用段階に入りました。主な変化は次の3点です。

- ・テキストから動画を生成できる：「〇〇な映像」と日本語で書くだけで、数秒～数十秒の動画クリップが出力される。
- ・静止画を動かせる：商品写真やロゴ画像を入力すると、自然な動きのついた映像に変換できる。
- ・AIナレーション・字幕も自動化できる：テキスト読み上げの品質が向上し、ナレーション収録の工程を省けるケースが増えている。

これらを組み合わせると、「スクリプト（台本）→映像生成→ナレーション→完成」というフローを、社内で一定のクオリティまで完結させられるようになっています。

どんな動画から内製化を始めるか

「型が決まっていて、繰り返し作るもの」から着手するのが現実的です。

- ・SNSショート動画：15～30秒の短い尺なので品質確認がしやすく、数を作る必要があるため内製化の効果が大きい。
- ・商品・サービスの紹介動画：静止画＋テキストで構成できるため、AIとの相性が良い。製品スペックや特徴を伝えるだけなら十分なクオリティが出やすい。
- ・採用向けの会社紹介動画：会社の雰囲気やオフィス紹介など「見せ方」の動画はAIで補えるシーンが増えている。

重要なブランドの動画は専門家に、繰り返し量産するコンテンツはAIに——役割を分けるのが現実的な方針です。

内製化の進め方（4ステップ）

- ・①「型」を決める：作りたい動画のジャンル・尺・構成パターンを決める。毎回ゼロから考えないために「テンプレ」を作ることが継続の鍵。
- ・② スクリプトをAIで下書きする：生成AIにシーンの説明文（プロンプト）を書かせたり、台本を作らせたりすることで、人が書く工数を削る。
- ・③ 映像・ナレーションを生成する：AI動画ツールにプロンプトを入力し、クリップを出力。AIナレーションか録音済み音声を合わせる。
- ・④ 確認・公開のフローを決める：公開前に人が確認し、修正・再生成するフローを組んでおく。

気をつけること

- ・ツールの利用規約（著作権・商用利用）を確認する：生成物の権利はツールごとに異なる。商用利用が許可されているプランを選ぶ必要がある。
- ・ブランドトーンを統一する：複数のAIツールを使うと動画ごとにテイストがバラバラになりやすい。色・フォント・ナレーションのトーンに関するガイドラインをあらかじめ設けておく。
- ・小さな試験から始める：いきなり公式サイトのメイン動画をAIで作るのではなく、SNS投稿など反応を見ながら調整できる場所から試す。

株式会社DnDでは、AI活用・業務効率化の仕組みづくりをご支援しています。

「何から始めればよいか」という段階からご相談いただけます。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>